

男女がともに 輝くために

共に輝くみほの会
—美浦村女性行政推進協議会—

問合せ 企画財政課
☎029-885-0340(内)208

「コロナ禍でのエンパシー」

工藤美恵

日本で新型コロナウイルスの感染が確認されて既に9カ月が経ちます。

2月の後半にはドラッグストアやスーパーマーケットからマスクや消毒液が消え、デマやフェイク情報によってトレットパーパーまで消える事態となりました。政府や自治体が『緊急事態宣言』を発令すると、県外ナンバーの車を傷付けたり、営業している店に嫌がらせの張り紙をする自粛警察、マスクをしていない人にわざわざ近づいて暴言を吐くマスク警察、お盆の時期には帰省警察なる人たちが生

まれました。

また、新型コロナウイルスの感染者や治療に当たる医療従事者、その家族への差別が伝えられています。感謝すべき医療従事者やその家を守る家族を差別するなど、私にとってはこの出来事全てがまるで怪奇現象です。決定的な治療薬がないため、不安と恐怖に心が侵されパニックに陥り、その心は、病者やその関係者を、恐怖、排除、差別の対象と見るのです。

かつて日本は、「癩予防法」なる法律で患者を強制隔離してきました。また、第二次世界大戦中、ナチスドイツが制定した「断種法」を手本とし、日本では1948年に「旧優生保護法」が制定されました。母体の安全の確保が目的ですが、人の命に優劣をつけたこの法律は、2万人以上の被害者を生んでいます。これを過去の事と葬ってしまうのは間違いです。「公共」とか「公益」の名の下に、エゴイズムや偏見、人権侵害が正当化され、人の心を蝕んでいきます。新型コロナウイルスに罹患していないのに、心がこの感染症に負けてしまっているのです。このま

までは最悪の場合、行き着くところは人類の不幸です。同じ過ちを犯してはなりません。

ネガティブな想像は、自身を恐怖に陥れるだけです。大切なのはポジティブな想像力です。こんな時、自分には何ができるか。

患者や医療従事者だけでなく、不安が募る世界中の人たちの心を励まし、癒すために、イタリア北部クレモナの病院の屋上で日本人バイオリンストの横山令奈さんのようにバイオリンを演奏することは私には出来ませんが、不確かな情報に惑わされない、エンパシー（自分がその人の立場だったらどうだろうと想像することによって誰かの感情や経験を分かち合う能力）を発揮する。

相手の心を思う、そして相手を尊重する心から豊かな想像力は生まれるのです。

11月12日～25日

『女性に対する暴力をなくす運動』期間

一人で悩まず相談を！



みほ文芸

正調俚謡 日和吟社 字結び「終・息」(一字以上詠み込み)

酒の臭いと疲れを乗せて揺れる吊革終電車
小さな寝息をたててる妻に先に逝くなど独り言
母の終活手伝いながらいつか来る日を愁う秋
息を弾ませ体育祭で見事一位も親は来ず
守る田畑爺婆二人終り悟るも継手なし
いつになったら差別は終る怒るマスクのテニス戦
息をこらして庭先しやがみ虫の合唱聞き惚れる
庭の草取り一息ついて空を見上げりや鯛雲
息も絶え絶え富士山登り一夜凍えた雲の上
終わり見えないコロナ禍生きる俚謡の仲間が道しるべ
未だ終息つかないコロナ閉まるテナント淋し街
寝顔見ながら吐息を聞いて孫の可愛さ一入だ
息を殺した夫婦の時間老いて互いの寝息聞く
コロナ終息願いを込めて拝む満月知らんぶり
終わり見えないコロナにや負けぬ朝のジョギング弾む息
コロナ自粛が長びき喘ぐ早い終息願う日々
終わり見えない新型コロナ命経済どう守る
世代交代当主が息子肩の荷おろして安堵時
コロナウイルス世界の傷手早く恐怖に終止符を
暑さ終わって今日からこたつ足をなげだしたらしく
十月の俳句(題 当季雑詠)

- 塚本夏雲
- 山崎笑子
- 石戸葎華
- 井戸賀蘇道
- 関根秀子
- 増尾青蓮
- 小池きよし
- 高橋一步
- 上野八千代
- 沼壽朋香
- 篠原美千代
- 山岸錦洋
- 長谷川悦子
- 田島草実
- 酒川夢花
- 門脇悠美
- 伊藤葉子
- 山岡亜子
- 小蘭江久美
- 山崎泰弘
- (五十首順)
- 青野安佐子
- 石毛恵美子
- 市川紀行
- 海道民子
- 木澤はしめ
- 小林美佐恵
- 高柳幸子
- 田島早苗
- 中島輝子
- 長田敏笑
- 増尾尚子
- 松葉蝶駿
- 松葉よしる
- 松本秀子

